

日本胸部外科学会における 女性医師支援

東京女子医科大学心臓血管外科 冨澤康子

医学会分科会10学会において男女共同参画や女性医師支援は、3年前に比べて少し進展しているように感じます。2011年、一男一女共同参画・女性医師支援委員会(以下「支援委」)の名称の下組織は22学会、小委員会は4学会、外部団体は6学会にできています。日本胸部外科学会には外部団体「女性医師の会」があり、今年の第64回日本胸部外科学会定期学術集会時に第6回の会を開催することができました(写真)。また、学会の招待演



者に女性外科医 宮田三郎先生が招かれ、女性委員が初めて司会をまかされた。上田裕一会長の「お便りに感謝いたします。会に参加してくださったロビンソン先生が、スウェーデンでは男性の産休が短く1週間しかないで長くするように活動しているとおっしゃっていました。海外の女性外科医の活動とその環境を知ることができたのは勉強になりました。

本学会では現在、300名の評議員のうち、非選挙の女性評議員が1名います。全委員会委員計150名のうち女性委員は2名です。川崎道雄処遇改善委員会委員長が本学会での女性委員の増加が加わっていることを指摘しておられますが、学会の役員、評議員、特に意思決定に女性の視点も必要と思われる専門医制度関連、倫理、教育、等の委員会の女性委員は皆無です。女性委員を1名、委員会に追加していただき、労務環境改善および継続就労に関わる意見を述べる場を増やしていただければ幸いです。

女性医師支援の集まりでは必ず集合写真をとります。私が知っているなかで一番多く写ってくださっている男性外科医は小野松先生です。理事長が一度でも集合写真の場に行ってください、入ってください、支障することを思っていることを示してください。また新年の挨拶の中に「女性(男女)」と「支援」とかいう言葉を使ってくださいことを希望いたします。

日本胸部外科学会

田林 一 先生
前理事長

近年、医師国家試験合格は毎年760017700人程度であり、死亡等を除いても医師数は毎年35004500人程度増加していることが報告されています。女性医師の割合は約30%とされており、約2300人の女性医師が毎年誕生していることになる。この割合は今後、増加する事が予想されており、男女の性別を除外したチーム医療が重要と思われる。いわゆる、チーム医療では「専門医志向」、「職種構成志向」、「患者志向」、「協働志向」の4つの要素が最大値を取る地点が理想型と言われており、その方向性を目指して努力していく必要があると思われる。チ

ーム医療はエトピアではなく具体的な業務遂行の在り方であり、そこから女性医師との協働は生まれてくるように思われる。

第64回日本胸部外科学会

上田裕一 先生
会長

第64回定期学術集会の会期中、10月10日の夕刻に第6回「女性医師の会」が開催され、会長の私も懇話の機会を得ました。今回はシンガポール大学から招聘のため参加されたスズキ先生、ロビンソン先生が、英国の女性胸部外科医の現状についての話提供をされ、さらにロビンソン先生のためスウェーデンから来日されたロビンソン先生も参加されて、活発な会となりました。今後は学術集会のコラボレーションも回り、多くの参加者が集う会となることを願っています。

日本胸部外科学会

処遇改善委員会委員長
川崎道雄 先生

医学部入学者に占める女性の割合は約3分の1となり、全医師数に占める女性医師の割合は増加傾向で、平成20年に18.1%です。日本胸部外科学会では、平成20年の医師会員7540人のうち259人(3%)、新入会医師203人のうち23人(11%)が女性医師でした。平成23年に女性会員4%、女性新入会員16%に増加しています。日本胸部外科学会では外科医の処遇改善に取り組みしており、関連学会と密に連携して、女性医師支援を進めていきます。